

杉戸町目沼10号墳出土の円筒埴輪棺について

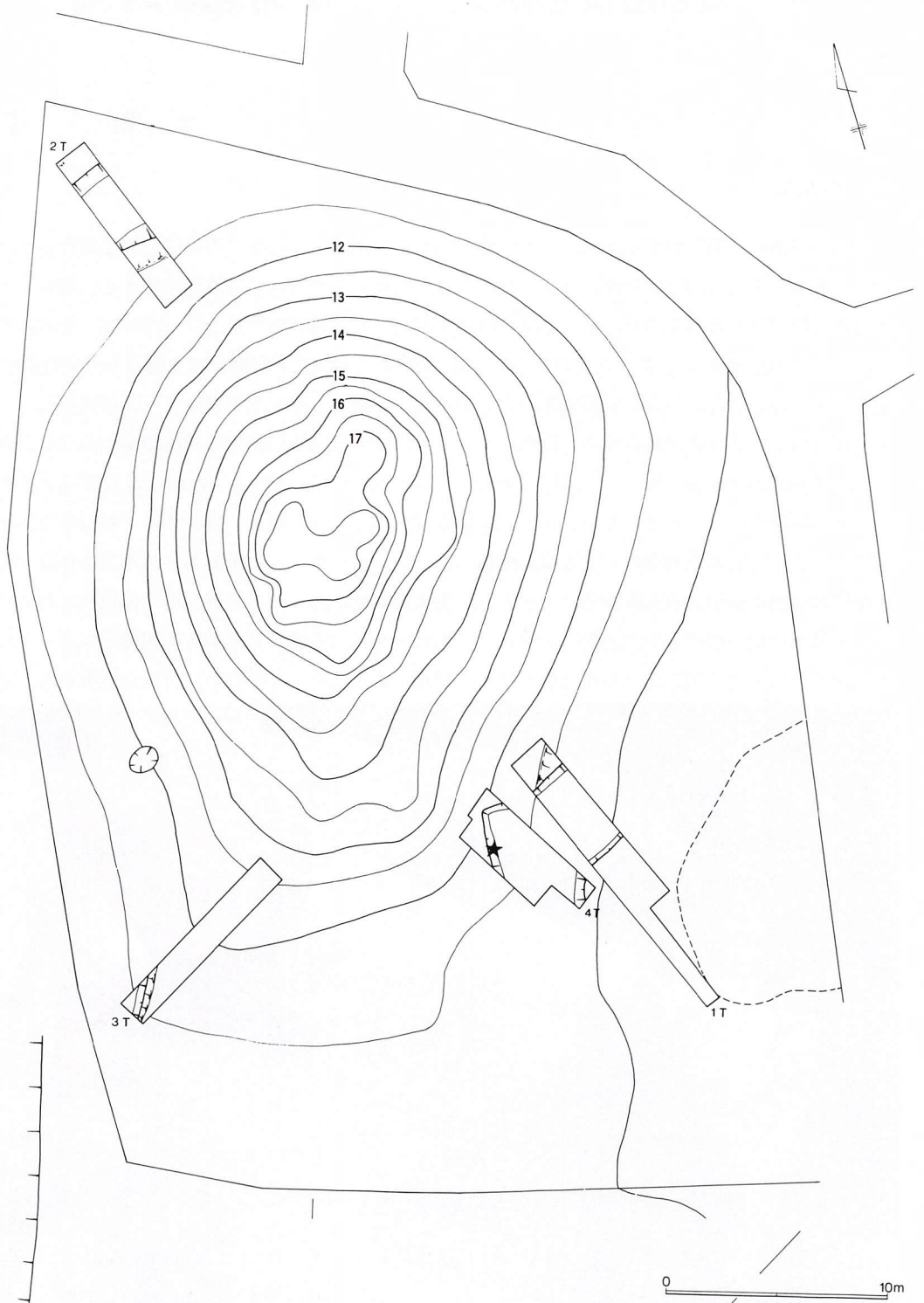
大 和 修

1. はじめに

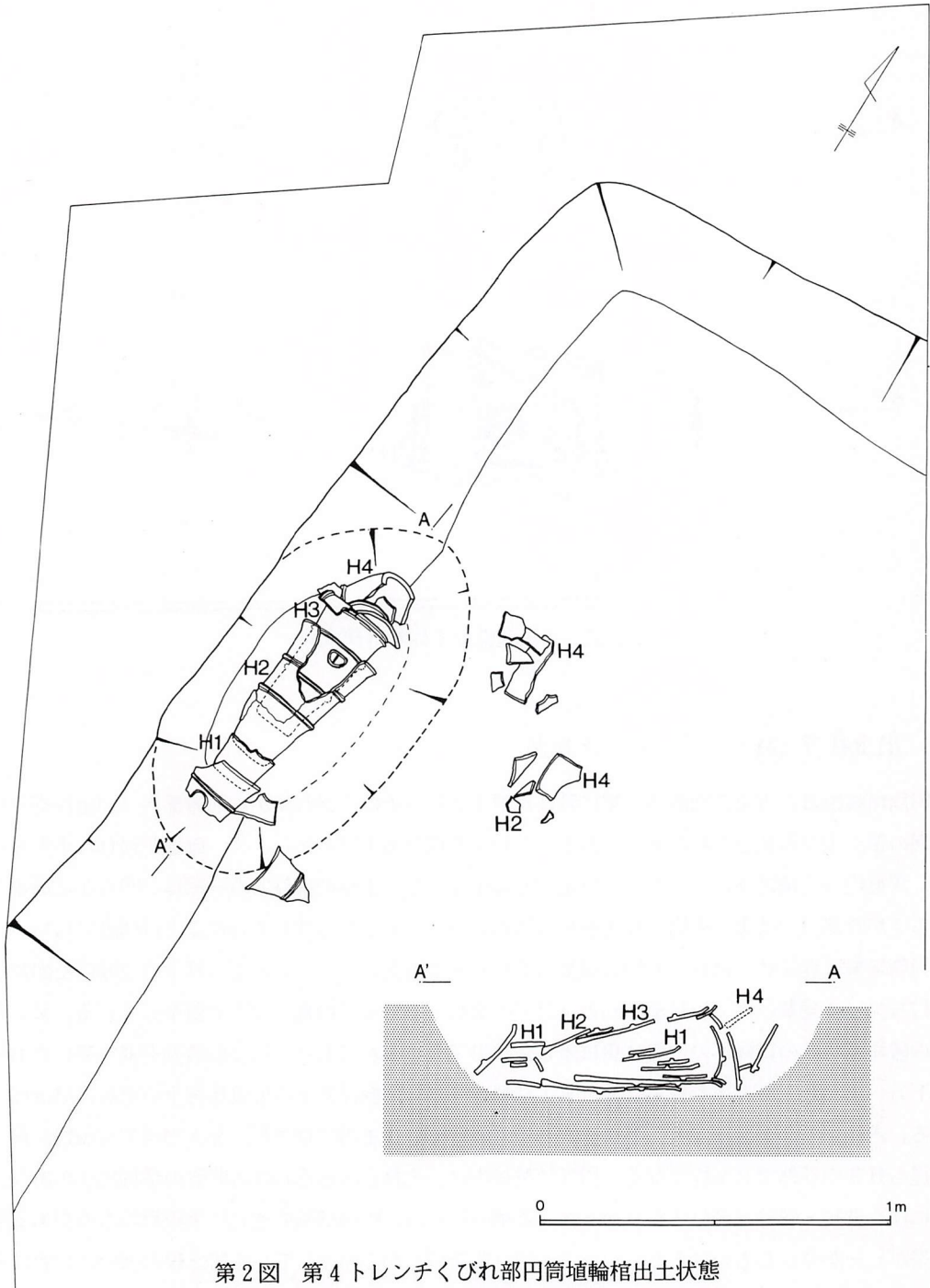
目沼10号墳は、埼玉県北葛飾郡杉戸町目沼字浅間に所在し、東に江戸川を望む、宝珠花台地上の、南北 500m、東西 300mの範囲に円墳17基・前方後円墳3基から成る古墳群中にある。現存する古墳は本古墳を含め3基であり、その他は、畑地の開墾・宅地開発等が早くから行われ、そのために削平もしくは消滅してしまったものである。本古墳は、かつてその墳丘に土盛りをして浅間社を祀ってあったと言われ、現在も墳頂部分の2m程は、急傾斜となって異様に尖った形状となっている。調査は昭和3年に近在の岩井石泉氏によって、墳丘の北東側の裾から円筒埴輪列の一部が発掘され、報告されている(註1)。当該資料については所在不明とされていたが、現在岩井氏の御子息の方の所蔵となっているらしい。又、本古墳は町有地となっており、現存する3基の中でも保存状態は良く、町教育委員会としても保存整備したい旨、お話があった事もあり、平成3年度の県内古墳詳細分布調査の試掘測量調査の一環として調査を実施した。その結果、従来円墳とされていたが、実は南に前方部をもつ後円部径30.4m、主軸46mを越える帆立貝式前方後円墳となることが確認できた。岩井氏の報文からも窺われる通り、墳裾に設定した4ヶ所のトレンチの周堀から、かな



目沼10号墳円筒埴輪棺出土状態

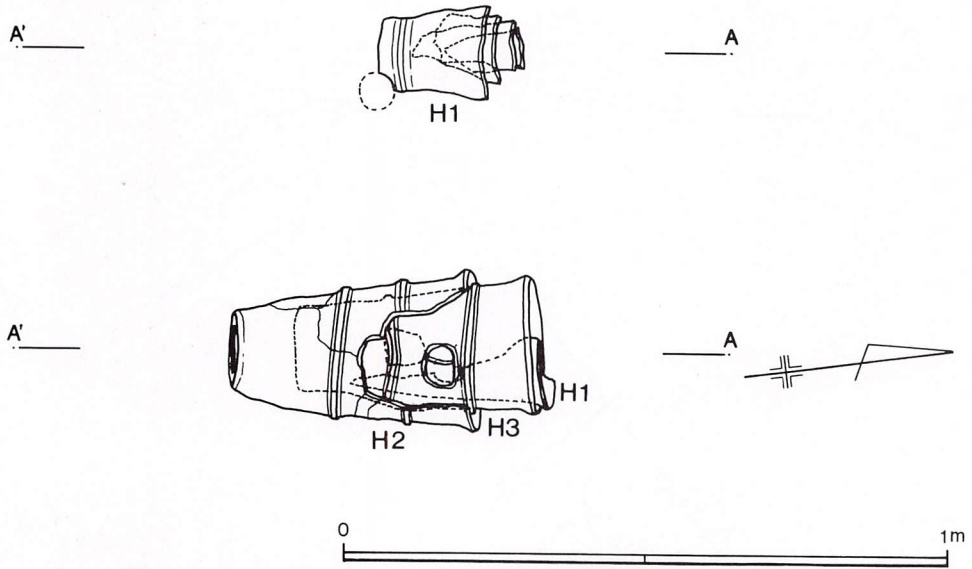


第1図 杉戸町目沼10号墳測量図
 (★が円筒埴輪棺出土地点)



第2図 第4トレンチくびれ部円筒埴輪棺出土状態

りの量の朝顔形、円筒埴輪片が墳裾から周堀に落ち込んだ形で出土した。そして南東側くびれ部に設定した第4トレンチ（第1図・4T）からは、いわゆる円筒埴輪棺が出土した。いずれ、古墳と出土した埴輪については、平成5年度に刊行する県内古墳詳細分布調査報告書の中で報告する予定であり、ここでは円筒埴輪棺の出土状況と、その出土例について若干触れてみたい。



第3図 円筒埴輪棺本体部分構成図

2. 出土状況（第1・2・3図）と類例

円筒埴輪棺は、古墳の南西側の裾に設けた第4トレンチのくびれ部から前方部へ1.3m程寄った、周堀の覆土中から発見されたものである。トレンチ内の出土でもあり、又、確認が遅れた事もあるが、周堀内の土壌はおおよそその形を推定するに留まるが、土壌の掘り方の一部は、明らかに周堀の立ち上がり部分の地山と周堀の覆土を掘り込んでおり、土壌が存在していたことは間違いない。

円筒埴輪の埋設状況はH3の円筒埴輪に下からH2を差し込み、その下にH1の埴輪の基部だけを打ち欠いて差し込み、口縁部方向と基部方向をH1とH4の埴輪の破片で蓋をしている。又、H1の破片はH3の口縁部の内側に更に差し込む形で発見されており、H3の透孔を塞いでいたものが下方へずれたものと思われる。又、H1基部からH3口縁部までの埋設状況下の全長は61cm程である。内径はH3が完形である事から、その内径がそのまま当てはまり、最大内径で20cm程、最小内径もH3の基部で9cm程となる。円筒埴輪棺内は、流れ込みと思われる軟質の暗褐色土があり、棺に伴う遺物・骨等は発見されなかった。古墳の年代は、円筒埴輪の透孔に半円形のものがある事、突帯がしっかりしたものであり、目沼7号墳（瓢箪塚）から出土している第1段の低い、いわゆる下総型埴輪が今回の調査で出土した埴輪の中に見られない事等から、6世紀前半と思われる。

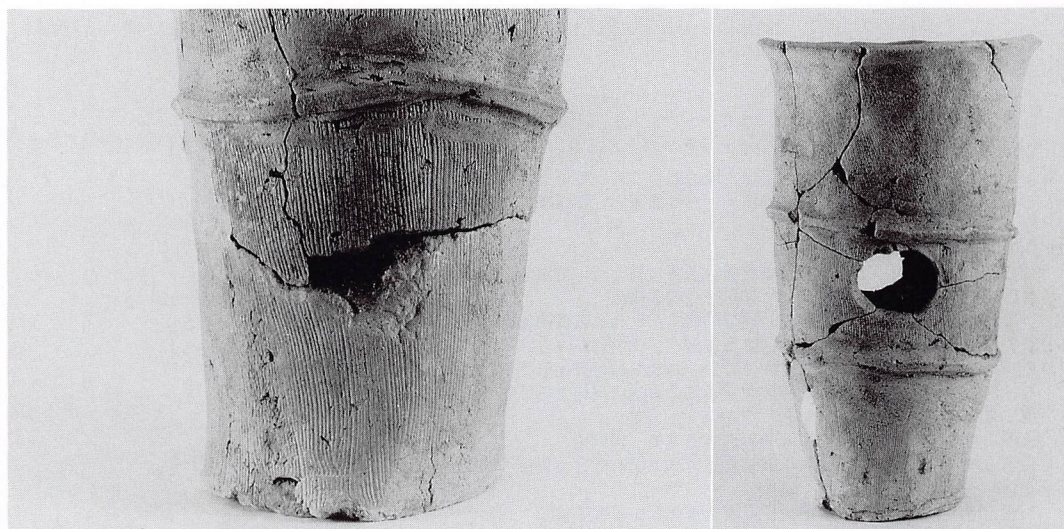
埼玉県内の円筒埴輪棺の出土例は、現在までの所、本例を含めて11遺跡13例が確認もしくは報告されている。時期は、6世紀前半～後半にわたると思われる。出土位置も墳裾、周堀の外縁部或いは外、と様々であり、複棺の合せ口状に組合わせたもの4例、差し込み状に組合わせたもの4例がある。（表1）



H1

H2

H3



H1 基部打痕

H4

円筒埴輪棺の出土例等については、橋本氏の論究に詳しいが(註2)管見に触れた限りで、その変遷について概略を述べてみたい。橋本氏の挙げた、特殊器台、特殊円筒を転用した棺が古い例とされるが、最近報告された、長野県更埴市森將軍塚古墳は、その築造が4世紀後半代の前方後円墳で、前方部上と埴裾からは65基にのぼる組合式箱形石棺と共に、12基の埴輪棺が検出された。その配置には、前方部頂、くびれ部裾、前方部裾と、個々の埴輪棺の方向性も主軸にほぼ平行、或いは直交と、一定の規制が伺われ、その配置等の類似性は、5世紀中葉とされる静岡県磐田市堂山古墳における埴輪棺の墳丘上のあり方とも通じるものが感じられる。状態の良い2号棺は、円筒埴輪の単棺で、両端を朝顔形円筒埴輪の花部で塞いでいる、と言った定型化した様相が伺える。森將軍塚古墳の埴輪棺と似る例は、群馬県玉村町下郷遺跡S Z46古墳の周堀外で検出されたS Z32の円筒埴輪棺がある。関西ではほぼ同時期の例としては、大阪市長原遺跡の塚ノ本古墳の周濠外から検出され

た埴輪円筒棺群がある。管見した地下鉄谷町線31、32工区の1～5号棺は大小様々であり、時期的にもこの古墳より新しい、5世紀に入る埴輪が含まれているようである。他に、京都府長岡京市南原東3号墳例に大型の盾形埴輪と円筒埴輪の複合棺や、専用棺があり、京都府城陽市下大谷1号墳第2主体例が挙げられる。5世紀前半とされるものは、奈良県北葛城郡広陵町倉塚2号棺、群馬県高崎市貝沢柳町遺跡2号埴輪棺である。5世紀中葉から後半になると、鳥取県羽合町長瀬高浜遺跡の古墳周堀検出の埴輪棺群、静岡県磐田市堂山古墳、京見塚古墳、福島県本宮町天王壇古墳の埴輪棺群と、奈良県葛城石光山古墳群51号墳・1号墳がある。特に堂山古墳例は、前方部主軸上に2基の専用棺と、中段・下段テラスから3基の転用棺が検出されており、京都府城陽市赤塚古墳Ⅱ主体例等と同様、一定の規制下に埋葬されたものと思われる。5世紀末～6世紀初頭には、葛城石光山古墳群30号墳埋葬施設2、41号墳埋葬施設2、48号墳埋葬施設2がある。6世紀前葉に入るものは、栃木県宇都宮市塚山古墳群中の射撃場内古墳埴輪棺例、葛城石光山古墳群中の40号墳埋葬施設3・4、47号墳埋葬施設1がある。6世紀中葉の例は、宇都宮市塚山古墳群1・2号埴輪棺、取手市市之台古墳群第3号墳埴輪円筒棺がある。大阪府羽曳野市茶山遺跡例は4世紀末、5世紀後半、6世紀と、各時期の埴輪が混在し、円筒埴輪棺の埋設時期の判断が難しい事がわかる。詳しい検討は、改めて行いたい。

報告に当り、次の方々にお世話になりました。記して感謝します。

磐田市教育委員会 山崎克己氏、筑波大学大学院 日高慎氏、図版作成：当館学芸員 利根川章彦、協力：同 若松良一

(註) 1. 岩井石泉 「北葛飾群の目沼古墳に就いて」 埼玉史談第1巻第2号 1929年

2. 橋本博文 「円筒棺と埴輪棺」 「古代探叢」 早稲田大学出版会 1980年

(引用参考文献)

「史跡森將軍塚古墳一保存整備事業発掘調査報告書一」 更埴市教育委員会 1992年

「磐田市史」 資料編Ⅰ 1992年 磐田市教育委員会

「下郷」一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第1集 群馬県教育委員会 1980年

「長原遺跡発掘調査報告」 長原遺跡調査会 1978、1982 改訂

「長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅳ」(財) 鳥取県教育文化財団 1982年

「長法寺南原古墳の研究」 大阪大学文学部考古学研究報告第2冊 1992年

「塚山古墳群」 栃木県考古学会 1979年

「天王壇古墳」 本宮町文化財調査報告書第8集 1984年

「白石古墳群・羽黒山古墳群」 埼玉県児玉郡美里町教育委員会 1991年

「上里町史資料編」 上里町 1992年

「屋田・寺ノ台」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第32集 1984年

「小前田古墳群」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第58集 1986年

表1 埼玉県の円筒埴輪棺

古墳名	出土位置	棺形状	時期	有効長(≒)
川越市南大塚古墳群	墳丘裾	?	6世紀末	90×27cm
坂戸市新町1号墳西北	墳丘裾(?)	差し込み複棺	6世紀前半～中葉	
吉見町久米田古墳群	周堀外	合せ口複棺	6世紀前半	
東松山市柏崎2号墳	墳丘下	合せ口複棺	6世紀中葉	
嵐山町屋田遺跡6号墳	墳丘裾	破片で囲む	6世紀前半	
嵐山町屋田遺跡7号墳	墳丘裾	差し込み複棺	6世紀前半	
小前田古墳群	?	?	?	
上里町寺浦1号墳	周堀外縁	合せ複棺	6世紀中葉	
美里町羽黒山7号墳	墳丘裾	合せ複棺	6世紀後半	
美里町後山王遺跡	周堀外縁	差し込み複棺	6世紀後半	
岡部町白山古墳群	?	?	?	125×23cm 63×23cm
杉戸町目沼10号墳	くびれ部	差し込み複棺	6世紀前半	
				60×2?